



誇り
 伝えられた文化・
 伝えていく人

三矢の訓
 おしえ

毛利元就の里

毛利元就 (右)

「戦国の雄」とたたえられた戦国の武将です。明応6年(1497年)、安芸国吉田郡郡山城(現在の安芸高田市吉田町)に生まれ、75歳で病死するまで200数十回におよぶ合戦をくぐりぬげ、毛利を西国随一の太守にしました。

安芸高田市歴史民俗博物館 (右下)

郡山城跡のふもとにある安芸高田市歴史民俗博物館は、原始・古代・中世・近代にわたり、貴重な資料の数々を展示、訪れる人々に紹介しています。

百万一心碑 (上)

百万一心碑は、毛利元就が郡山城を拡張するとき人柱に替えて姫丸壇の礎石に「百万一心」と彫らせ、それを埋めたと伝えられています。



「全国的に有名なものは？」と安芸高田市民にたずねると、おそらくこう答えるだろう。「毛利元就」と。

戦国時代、中国地方を一つにまとめたのは、毛利元就だった。元就がその生涯を過ごした安芸高田市には、毛利氏ゆかりの史跡が数多く残されており、戦国時代の足跡をたどることが出来る。「三本の矢を重ねることので折れにくくなる」と息子たちに協力の大切さを伝えた「三矢の訓」、「百万の人が心を一つに」、また一日一力一心「日と同じうにし、力を同じうにし、力を同じうにし、心を同じうにする」と一致団結の大切さを伝えた「百万一心」。元就の訓えは、市民の心の中で生き続ける。

誇り
 伝えられた文化・
 伝えていく人

舞い

切磋琢磨 ひろしま安芸高田神楽



神楽門前湯治村

美土里町にある神楽門前湯治村では、誰でも気軽に神楽を鑑賞できます。神楽専用の舞台“神楽ドーム”とすぐ近所で神楽鑑賞ができる“かむくら座”があり、年数回の神楽大会のほか、金曜・土曜日の夜には夜神楽が楽しめます。宿泊や温泉入浴や宴会もできるため大人気です。



秋祭りの季節、お宮では神楽が舞われる。舞殿から響く太鼓や笛の音。昔も今も変わらずに、心の中に響いてくる。

神楽は神々へ捧げるもの。神が楽しみ、舞人が楽しみ、見る人が楽しむ。舞殿と客席がひとつになったとき、神人和楽の世界が生まれる。笛や太鼓が鳴り始めると、幼い子どもが神楽を舞い始める。神楽はそんな不思議な力を秘めている。今では公演の場は地域のお宮だけでなく、県内外のお祭りやイベントへと出かけるようになった。

神楽を舞い継ぐ者たちは皆、昼間は仕事や勉強に励み、夜な夜な練習を重ねて本番に備える。現在では、市内に22の神楽団が神楽を舞い、舞人たちはその技を磨いている。安芸高田の神楽は、切磋琢磨を続ける。



東京公演

「ひろしま安芸高田神楽」の魅力を全国に広める取組として、東京公演を開催しています。同時に、会場では物産品の販売や市の紹介パンフレットの配布も行い、市のPR活動も行っています。

ひろしま安芸高田神楽の特徴

演技性が高く、1演目が1つの物語になっています。大変多くの演目があり、それぞれの神楽団が独自に趣向を凝らしています。正義役(神)と悪役(鬼や大蛇)が登場し、激しく闘いながら、最後は正義役が悪役を退治するという内容のものが多いです。



誇り

伝えられた文化・
伝えていく人

サンフレッチェ広島

「三矢の訓」がチーム名に
これがかきつけて交流が始まる

プロサッカーリーグ（Jリーグ）が始まる前の年、広島県にもプロサッカーチームが生まれた。サンフレッチェ広島だ。このチーム名の由来は毛利元就の「三矢の訓」からつけられている。安芸高田市吉田町とサンフレッチェとのつながりは、このチーム名がきっかけとなった。元就ゆかりの清神社へ、選手たちが毎年必勝祈願に訪れる。

安芸高田の地で勉強と
サッカーに励むユースの選手たち

サンフレッチェ広島には、ユースという高校生を中心とした組織がある。高校に通いながら、プロになるための練習はもちろん、サッカーを通じて人間性も鍛えている。ユースの選手たちは、昼は地元の高校で勉強をして、夕方から練習を行う。プロになるという大きな目標を持ち、この安芸高田の地で。



吉田サッカー公園

サンフレッチェ広島の練習拠点である吉田サッカー公園。毎週練習にやってくる選手たち。ユースの選手もここで練習をしています。地元の子どもたちも直接憧れの選手にサッカーを教えてもらうこともあります。

安芸高田市スポンサーゲーム

毎年、市民大応援団がサンフレッチェ広島のホームゲームにかけつけ熱い声援をおくっています。マザータウン安芸高田市がスポンサーとなり、無料送迎バスの運行や市の特産品等の販売、そして毛利軍団による武者応援など、ゲーム開始前から終了まで熱烈な応援を展開します。



誇り
 伝えられた文化
 伝えていく人



ハンドボール部

湧永製薬

仕事の後はハンドボール

安芸高田市甲田町には、湧永製薬ハンドボール部「レオリック」がある。言わずと知れた日本最高峰のハンドボール実業団チームだ。全国各地から集まった選手たちは、安芸高田市内の寮やアパートで生活を送っている。勤務が終われば、それから限られた時間の中で練習を行う。身長が190cmをこえる選手たちがコート内を駆け回る実業団の試合は、見ているだけでも迫力満点だ。

有名な監督や選手から直接教えてもらえる環境が

湧永製薬ハンドボール部は、地域への普及に努めている。良い指導者に出会えた子どもたちは、めきめきと力を付けていった。県代表として全国大会へ出場する。この快進撃は小学生チームだけではなかった。小学校での経験者が中学校で全国大会へ、また高校でもインターハイへ出場など、ハンドボールと共に育ってきた子どもたちは着実に力をつけている。その中から夢であった湧永製薬ハンドボール部に地元選手が誕生した。

甲田とハンドボール

ひろしま国体では、甲田はハンドボールの開催地を引き受けました。民泊で選手たちを受け入れ、チームの応援に住民たちは体育館に押し寄せ、見るうちにハンドボールを知り、ハンドボールのルールを知っていききました。それ以来、甲田で開催する中学ハンドボール大会では、民泊で参加チームを受け入れています。

